

# ひのたいしんびん

昭和63年  
9月13日

発行  
「ひのたいしんびん」  
編集発行部



のみなさんに配付しています。

## 老人健診を受けましょう

日野市では八月一日より基本健康審査、いわゆる老人健診がはじまっています。各家庭に市役所から受診票がとどいているかとおもいます。昨年の厚生省の発表によると百才をこえる高齢者が国内に二千名をこえ、二千二百七十一名に達したそうです。この二十四年間に十五倍もおおくの方が百才の峠をこえたことになるそうです。診療所の患者さんで最高齢は、日野台二丁目在住の明治二十四年うまれのおばあちゃん、程久保在住の明治二十四年うまれのおばあちゃんです。長生きするということ何かとてもたいへんなことという感じがしますがやはり大切なのは、日頃の積み重ねにあるようです。人生八十年代をむかえ健康にたいする意識も変わりつつあります。ながい人生を充実していくためには、日頃よりの健康の管理が大切になっていきます。

日野市の健康審査は、おおくの方が医療機関にかかり健康のチェックをうけるといふ点では、大切な意味があります。日本の医療保制度は、病気にかかっていないと病院にかかれぬ、保健の適応を受けられない制度になっているので、健康な人が病院にかかる機会が他の国にくらべて少ないようです。健康審査の制度は病気を早期に見出すだけでなく、健康の管理をすすめるうえでも大切な制度です。

協力会では、十日役員会をひらき、「おおくの人に健診をすすめるよう、健診制度の充実に向けて働き掛けよう」、「高齢者の健康について考える懇談会」(仮称)をひらこう」等々を内容とする「老人健診のすすめ」を会員



日野市でおこなわれている老人健診の検査内容は、以下のとおり。  
血圧測定・尿検査・肝臓機能検査・貧血の検査・心電図・胸部レントゲンです。

日頃自分は、健康に自身があるとゆう人もふくめ、基本健康審査をうけることをおすすめします。

佐々木先生の挨拶。協力会の代表よりおくる言葉、多摩平の清水さんの音頭で乾杯があり、二部よりのヤキトリ・パーティーに流れ込みました。おにぎり、飲み物オツマミ盛りたくさん。その頃には参加者も五十三名狭い診療所もあふれるばかり。堀江さんの得意中の

残暑お見舞い申しあげます。  
盛夏をむかえて、暑さもいよいよ本格的的になってきました。暑さのおり、いかがお過ごしでしょうか。八月より診療体制が変わります。要望のつよかった月曜日に小児科の増田先生にはいつていただき木曜日は大石先生となります。あたらしく火曜日に大阪の芝病院で消化器科の信夫先生のふ～先生にはいつていただくことになりました。よろしくお願ひいたします。

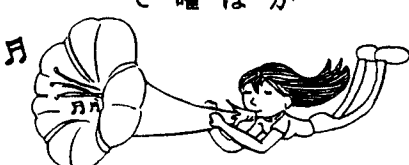
日野台診療所事務長 渋谷直

**ヤキトリパーティー**  
7月16日 日野台先生  
二年間 本場に 御苦勞様  
52名の参加

七月十六日宮地前所長、佐々木先生新所長さんの送迎会が日野台診療所内で行われました。何とか晴れる様に願いましたがちょうどはじまる頃小雨が降り始め室内の歓送迎会となりました。今年の梅雨は全く意地が悪い。「二年間本場に御苦勞様でした 宮地先生」高瀬さんの司会で始まり、宮地先生、

**日野台診療所体制表**  
☎81-6175  
内科・小児科

	土	金	木	水	火	月
夜間		上田		滝田		山田
外来			大石		信夫	増田
午	鈴木 4週	大石		安河地	信夫	増田
外	鈴木 4週		大石		信夫	増田
午	鈴木 4週		大石		信夫	増田
外	鈴木 4週		大石		信夫	増田
夜	鈴木 4週		大石		信夫	増田



# 健康たより

## 早起き めざまし体操



今学校は、夏休み。夏休みといえは朝のラジオ体操です。日野台の地域でも朝早くから公園とか空き地に子供たちがあつまります。私は「食事の支度は私がやるので」という調子でまだ一度もラジオ体操に参加したことがなかったので編集長と待ち合わせをして取材に行くことにしました。日野台二丁目の公園で約百名位の子供たちとしっかりとした空気の第一、第二体操をやりました。おわりますと首に下げたカードに「

はんこー」をもらうために舞台の前に並びます。その合間をみてインタビューをさせてもらいました。「おあさんに起こされなくて目がさめる。」「食事がおいしい。」「最後にノートがもらえるからのしめだ。」「など子供たちから意見をきくことができました。」「土日は、仕事が見てから、子供に付き合うようにしているんです。」「おとうさんの意見でした。あるかたは「ラジオ体操は昭和三十八年から始まりました。最初は今のようには長くはなかったんです。伝統があるんですよ。」「話してくださいました。これを機会に私も続けたいとおもいました。

ウサ子

# スポット

栄養士の  
美智恵さんです



日野の皆さんはじめまして。とはいつても今までも時々診療所や、市の行事などに参加させていたただいていたので顔なじみの方も何人もいらつしゃいます。でも七日から日野台診療所の職員として全面的にこちらでお世話になることになりました。よろしくお願ひします。

日野台診療所のように無床の診療所に栄養士がいるというのはヒジョウにめづらしいケースです。私は今までもずっと病院で働いてきました。が、生活の場で、地域で栄養士活動をしたという希望をずっともっていました。その私の希望と診療所の活動方針が一致し今回のめづらしい人事が実現しました。経営的にみても栄養士の仕事はほとんど収入には結び付きません。そのため一応事務職兼任というのですが、しかし外来には高血圧や糖尿病、肥満ぎみの患者

さんがおおく来院されます。地域では、協力会のみなさんの自主的な健康維持増進の活動がおこなわれています。また、最近ますます食品の安全性が危惧される状況がうまれています。この様な中で、栄養士として一緒に活動していろいろ内容は一杯あるように思います。生来の勉強嫌いのためこれから勉強しなければならぬ部分も多いので、要望に十分応えられるか不安ですが、私自身もこの活動で成長していきたいと思っています。よろしくお願ひします。

# 朝日新聞注目

消費税。税率が、三パーセントでも増税は八兆円というりっぱな増税です。選挙まえには賛成の人はひとりもいなかった大型増税です。消費するあらゆる物品に課税する消費税、健康をまもる医療機関も例外ではありません。渋谷事務長も診療所の経営をまもるためにも日夜反対運動に奮闘中です。自民党は、国民世論を無視してこの臨時国会で導入をはかろうとしています。そこで、三多摩の反対する人々が声を掛け合って八月二十八日の朝日新聞の紙面に「消費税」反対の意見広告をだすことになりました。どうぞ御注目ください。

# 大石先生のご旅行について



七月十二日から十九日までの八日間、ソ連のモスクワ、レニングラード、さらにフィンランドにわたってヘルシンキを視察することができました。東京成田空港発十時五十分発ソビエトのアエロフロートSU1588便で。シベリア上空、ウラル山脈を越え一路モスクワへ。一万メートルの上空、見える物とて雲ばかり、少々苦痛な十時間余りの空の旅でありました。

モスクワは御存じの通り、ソビエト社会主義連邦共和国の首都であります。十三日は市の中央部にあるクレムリン宮殿、赤の広場、レーニン丘、プーシキン美術館などを見学。クレムリン地区は、モスクワで最も古い地区で、首都の社会、政治および歴史、芸術の主要な中心地。ソ連の国家権力最高機関の所在地。ここには十五世紀末から十六世紀初めにかけての古代ロシア建築の類のない記念物が保存されています。さすがと感激深いものがありました。

シリイ寺院、レーニン廊とバスをおりてから歩かされる距離がかなりあるので私には足にこたえました。コインで係入りジュースなどが簡単に手に入れられる日本が恋しくなりました。カラカラに乾いた口の中つばが粘りつく不快な日でした。街路にそういった設備が全くないのです。ソ連の女性、特に中年を過ぎた女は全く太っていて心臓がえらいだろうと想像されました。

公園の芝生に紙をしいてやすんでいる女の人の姿を時々みかけました。また街路わき体重計をもって体重の測定をやっている光景もよくみられました。

見学の帰途バスの中でソ連の住宅事情について説明者が話すところによると、家族の人数によって部屋が与えられ、家賃も低く定められています。光熱費も一定して生活費がやすい。病氣しても治療費は無料との事で日本などと比較して驚く事が多かったです。夜は寝台列車にてレニングラードへと向かいました。(続く)

蒸し暑い天気で、赤の広場、聖バ

